

(1) 第12回 先端加速器科学技術推進シンポジウム

日 時：平成24年10月24日

場 所：東京大学 本郷キャンパス 伊藤謝恩ホール

テーマ：先端加速器科学・産業フォーラム『グローバル研究都市の創成』

参加者：300名

概 要：

10月24日(水)、東京大学・本郷キャンパス 伊藤謝恩ホールで「先端加速器科学・産業フォーラム『グローバル研究都市の創成』」が開催されました。このフォーラムは、日本創成会議(JPC)と先端加速器科学技術推進協議会(AAA)が共同で主催したもので、JPCと協力することで、社会的、政治的、教育的観点までスコープを広げて、ILCの意義が議論されました。

本フォーラムは、開催日程が米テキサス州アーリントンで開催された「LCWS12 会議」と重なり、日本人研究者がほとんど参加することができませんでしたが、産業界・報道関係者等、約300名の参加者がありました。

西岡喬 AAA 会長は開会挨拶で「ILCは真の国際都市を創成するプロジェクトであり、イノベーション創出の起爆剤となることを期待している」と述べました。続いて、高木義明、河村健夫の両議員から来賓挨拶がありました。高木氏は「ILCは世界の叡智と巨額の費用を要するプロジェクトであり、国民の理解・支持が不可欠であることから、今回のシンポジウムのような議論の場を持つことは重要である」と述べました。また、河村氏は、ILCは「頭脳循環の核」にあるとしたうえで、国家予算化や立法面での支援を表明されました。

引き続き、日本創成会議座長の増田寛也氏による「『科学技術立国・日本』創成にむけて」と題する講演が行われました。増田氏は、2012年7月に発表した ILC の日本誘致に言及している「[提言](#)」について解説しました。この提言の執筆にあたり、増田氏は CERN を訪問してホイヤー所長とグローバル都市へのニーズと、その運営に関する課題について懇談しており、講演内で、グローバスタガバナンスの重要性や病院、学校等の生活インフラの整備、配偶者の就業体制等のホイヤー氏からの指摘を紹介しました。

続いて、ロルフ・ホイヤーCERN 所長が「『宇宙を解明する LHC』、これからの素粒子物理学研究における日本への期待」と題する講演を行いました。ホイヤー氏は大型ハドロンコライダーで行われている実験について紹介。ヒッグス粒子探索の難しさを「吹雪の中で特別な雪片を探すようなもの」と比喻し、「世界は変わりつつある。新粒子の発見は、標準理論を超えた理論として、今後の研究の道筋を示し、今後20年間のエネルギーフロンティア研究のガイドになる」と述べました。今後の方向性としては、LHCのアップグレード、大型陽子・電子衝突加速器(LHeC)、そしてリニアコライダーを挙げ「現在は非常に面白い時だ」と講演を締めくくりました。

最後に、各界の専門家によるパネルディスカッションが行われました。増田氏、西岡氏に加え、大阪大学招聘教授・筑波大学客員教授 鈴木 寛氏、ベルリッツコーポレーション会長兼社長兼CEO 内永ゆか子氏、高エネルギー加速器研究機構 鈴木 厚人機構長、文部科学省大臣官房審議官（研究振興局担当） 森本 浩一氏がパネリストとして参加しました。モデレーターは、東京大学の山下了准教授が務めました。

パネルディスカッションで鈴木厚人氏は、日本の研究機関の問題点として、インハウス・エンジニアの不在を指摘。増田氏は、新しいグローバル都市のすみやすい環境づくりの重要性を強調しました。西岡氏は、これまでの日本の強みは製造技術にあったことを述べ「これからは、もっと創造的な分野で強みを発揮していく必要がある。加速器科学が新しい産業モデルを牽引することに期待する」と述べました。内永氏は「日本国内にグローバル都市を作るためには、英語は大きな問題ではない」としたうえで、日本人は一般的に、グローバルリーダーシップを取るのが苦手だと分析し「ILC は日本人が国内でダイバーシティをもち、世界に貢献する契機になる」と述べました。

鈴木寛氏は、山中伸弥氏のノーベル医学・生理学賞受賞に言及し「日本はこれから、iPS と ILC の『ダブル i』で行こうではないか」と述べ、会場の笑いを誘いました。鈴木氏はまた、日本は加速器といえば日本、として産業のブランド化が期待できると述べました。

森本氏は「世界は頭脳獲得競争の最中だ。日本は人材を惹き付けるインフラを提案して、勝ち抜く必要がある。ILC は重要な試金石だ」と述べました。パネルディスカッションは、ホイヤー氏、東京大学公共政策大学院教授 城山 英明氏、文科省科学技術・学術政策局長 土屋 定之氏、衆議院議員 塩谷立氏の4名のコメンテーターのコメントで締めくくられました。

城山氏は「純粋科学の見地のみならず、ILC の社会的な意義も考慮すべきである」と述べ、土屋氏は「科学技術は日本の生命線。ILC は全人類的に取り組む国際貢献である」と述べました。塩谷氏は「科学技術の推進は日本の最重要課題。ILC は具体的に進めるべき段階にきている。盛り上げていきたい」と述べました。



CERN 所長
ロルフ・ホイヤー



衆議院議員
河村 建夫



衆議院議員
高木 義明



日本創成会議
増田座長



先端加速器科学技術推進
協議会 西岡会長



先端加速器科学技術推進
協議会 鈴木機構長



ベルリツコーポレーション会長兼社長
内永 CEO



参議院議員
鈴木 寛



文部科学省研究振興局担当
森本大臣官房審議官



東京大学素粒子物理国際
研究センター 山下准教授